

令和7年度松江市自死対策事業検討会 会議要旨

1. 日 時 令和8年3月18日(水) 14時00分～15時30分

2. 場 所 松江市保健福祉総合センター 3階大会議室

3. 出席者

- (1) 委 員 堀委員長、板垣副委員長、板倉委員、深貝委員、森脇委員、栗原委員、川島委員、堀江委員、安藤委員、坂本委員、西村委員、日野委員、桑原正好氏(高島委員の代理出席)
- (2) 事務局 松原健康福祉部長、持田健康福祉部次長、山崎健康推進課長、堀江保健専門官、高野心の健康支援課長(松江保健所)、健康推進課：太田保健総務係長、吉原保健師、山根副主任

4. 議 題

(1) 報告事項

- ①自死の状況について
- ②松江市自死予防運動の取組みについて

(2) 議事

- ・自死対策事業令和7年度の取組み評価と今後の対策について
- ・目標数値の修正について(ゲートキーパー研修受講者数)

(3) その他

5. 会議経過

◇開会

◇健康福祉部長あいさつ

- ・日頃の取組みへのお礼
- ・令和7年の国と本市における自死者の状況(暫定値)
- ・本日の議事の説明

◇委員長・副委員長の選任

- ・堀委員長、板垣副委員長の就任

◇情報公開

- ・「松江市情報公開条例」及びそれに基づく「審議会等の公開に関する要綱」の規定により、公開とすることを報告

(1) 報告事項

①自死の状況について

- ・資料1に沿って説明

②松江市自死予防運動の取組みについて

- ・資料2に沿って説明

【委員からの意見・質問等】

9月に自殺対策予防学会へ参加。松江市は堀江専門官が松江市医師会・松江市（・松江商工会議所）が協調して自死対策に取り組んでいることを発表し、松江市の活動は高く評価された。

(2) 議事：自死対策事業令和7年度の取組み評価と今後の対策について

資料3を事前に配布して、網掛けをした部分を中心に確認していただくようお願いしていた。お気づきの点、質問・ご意見をお願いしたい。

【委員からの意見・質問等】

- ・松江保健所の取組の中で「国の調査研究成果を把握・収集した」とあるが、国・県などの調査研究が自死対策に役立ったということはあるか。

→〈事務局〉国や県の調査研究成果は活用している。例えば、警察が公表している警察統計を注視しながら政策立案を行うことがある。ただし、警察統計だけでは自死された方の詳細な情報が見えにくい現状があるため、他にも厚生労働省のクロス統計などを分析し、医師会・商工会議所とのワーキングの場などで情報共有することで、内部の政策立案に活かしている。

- ・松江保健所で実施するゲートキーパー研修について、令和7年度の実績がゼロとなっている。先日、いのちの電話が、松江保健所と連携してゲートキーパー研修を行ったと記憶しているが、それはカウントされないのか。

→〈事務局〉いのちの電話様からゲートキーパー研修に関する連絡を受けたことは記憶しており、ゲートキーパー研修が実施できる団体・部署につないだと思う。現状、松江保健所直営のゲートキーパー研修は実施しておらず、関連の部署に繋げることで対応している。そのため、令和7年度は実施はゼロとなっている。

- ・ゲートキーパー研修について、他自治体では市議会議員を対象に自死遺族がゲートキーパー研修の講師役をしたことがある。色々な方面からアプローチが必要だと思う。

議事：ゲートキーパー研修目標値の修正について

松江市では第2次松江市自死対策推進計画を策定し、令和9年度までのゲートキーパー研修受講者数を3500人まで増やすことを目標としている。令和7年度に松江市役所全

職員を対象としたゲートキーパー研修を実施した結果、令和7年度時点で4787人となり、現行の目標を大きく上回っている状況である。そのため、令和9年度までの新たな目標値を5200人へ上方修正しようと思うが、お気づきの点、質問・ご意見をお願いしたい。

【委員からの意見・質問等】

ゲートキーパー研修の受講者数については随分進んでいるなど感じた。研修の資料については、ワーキングで医師会の意見も汲み取ってもらっている。先ほどゲートキーパー研修の講師を自死遺族の方が行うという話があったが、肉声を届けるというのも考えていかなければいけないと思う。

(3) その他

事務局より以下を説明

- ・3月は自死対策強化月間であるため、取組みの協力依頼
- ・3月13日から3月23日までさんびる文化センタープラバホールで「私たちのまさか自死遺族の想いを伝えるパネル展」を開催。
- ・令和8年度も2月～3月頃に1回開催予定。

【委員からの意見・質問等】

・本日まで参加の委員のみなさまに新聞記事、パネル展に来場した高校生の感想文を配布した。若い世代が、目で見、感じて、このような感想をくれたのは啓発という面からとても重要。「分かち合いの会・虹」は自助から始まり、互助、公助、共助と発展してきたと感じる。今後も当事者として啓発に力を入れていく。

・松江市・松江市医師会・松江商工会議所は自死対策ワーキングを2～3か月に1度行い、松江市の自死の状況を細やかに確認している。自死者数が急増した令和2年からワーキングをはじめ、ずっと減少傾向だったが、令和7年は微増という結果になった。特に40代・50代の女性の自死者数が令和6年がゼロだったのに対し、令和7年は9人に大きく増加しており、ここまでの急増は何かしらの社会的な変化があるのではないかと危機感を覚える。物価高をはじめとする経済問題が深刻化する中で自死問題については特に注意が必要な時期だと感じている。3月の強化月間の活動もどのように実を結ぶのか、今後の状況を細やかに注視したい。

・昨年、この会議の中で、学校教育の場で1人1台端末が配布され、「自死」「死にたい」「自殺」などのワードが検索された場合、アラートが出るという話を聞いた。おそらく多くが興味本位や間違えて入力したなどのケースだと思うが、心にふと思ったことがあって検索したと思う。そのようなケースは特に注意しないといけないと思う。

学校では子どもたちの自死防止に向けた対応や新たな取り組みはあるのか。
→学校では1人1台のタブレットで、危険ワードが出た場合、本人に聞き取りや保護者への連絡を行っている。国・県・市からの多くの文書が届くが、子どもの命に関することは最優先で気を付けて対応している。自殺対策基本法一部改正もあり、学校の責務として子どもの自死防止等の取組を務めるよう明記されたこともあり、より一層教員は意識を高く持って、子どもと接する事が求められている。また、誤った情報が溢れている中で、正しい知識や情報を教えるということが学校に求められている。そのためにも、SOSの出し方教育の強化が必要である。学校における自死防止への取り組みは今までもおこなっていたが、子どもの自死が増加している中で、今までより感度をあげて取組むことが重要であり、これからも意識を高く持って取り組む。

・最前線で小さい子供と接することが多いからこそ、子どもの自死がゼロになってほしい。そのために頑張れたらいいなと思っている。

◇閉会

令和 年 月 日

松江市自死対策事業検討会

委員長 _____